

Smart Times

2020年7月1日、全国の郵便局でレジ袋が変わった。非食用の米を原料としたバイオマスプラスチックを30%配合したレジ袋だ。バイオマスプラスチックとは、トウモロコシやサ

トウキビなどのでんぷんや、食品廃棄物を原料とする新素材。持続可能な社会に貢献する切り札として注目されており、ごみ焼却などで排出される二酸化炭素(CO₂)の削減が見込まれている。

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート(現リクルートホールディングス)入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

この革新的なレジ袋を開発した会社は、全国有数の米どころである新潟県南魚沼市にある。国産米のプラスチック樹脂製造をうたうバイオマスレジン南魚沼から作るバイオマスプラス

発した会社は、全国有数の米どころである新潟県南魚沼市にある。国産米のプラスチック樹脂製造をうたうバイオマスレジン南魚沼から作るバイオマスプラスチックの生産拠点を設立し、もう駄目だと思った」と振り返る。研究開発分野で新境地を開拓している。環境省は国産バイオマスプラ

バイオマスプラスチックに新潮流

創業者の神谷雄仁さん
15年近くひとつの研究に打ち込んできた起業家だ。多くの波に翻弄された粒々辛苦の道のりで、「何

だ。原材料は国内の食品製造業から出るフードロスや災害米、日本酒の醸造過程で削られる米粉、古米など。主力製品は米を70%配合した「ライスレジン」で、石油由来の樹脂と比べコストや成形性、強度などほぼ同等レベル。既存製品に対して競争力がありサーキュラー・エコノミー(循環型)など大手玩具メーカーの知

た「ライスレジン」で、石油由来の樹脂と比べコストや成形性、強度などほぼ同等レベル。既存製品に対して競争力がありサーキュラー・エコノミー(循環型)など大手玩具メーカーの知

育玩具や文具、家庭用品、おじいちゃんや町工場のおやじさんから認められたことで活路が見いだせ、社会の役に立てると思った」とのことだった。

創業者の神谷雄仁さんは、15年近くひとつの研究に打ち込んできた起業家だ。多くの波に翻弄された粒々辛苦の道のりで、「何

社会起業家の顔を併せ持つ神谷さんの志に共感し、当社も投資など積極的に支援している。バイオマスレ

は、15年近くひとつの研究に打ち込んできた起業家だ。多くの波に翻弄された粒々辛苦の道のりで、「何

環境省は国産バイオマスプラスチックの年間出荷目標を、2030年までに現状の50倍に当たる約200万トンに拡大すると発表した。

この潮流のなか、全国で米生産量1位の新潟県南魚沼市のスタートアップの挑戦が、新たな産業創生の歴史を刻んでいる。